第 129 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成　28 年　3 月　29 日提出）

１．題　目：初習外国語教育の自学自習について－LACS を中心に－

２．日　時：平成 28 年　2 月　6 日（土）14：00 ～16：30

３．場　所：教養教育講義棟 C-35

４．主　催：初習外国語小委員会

５．対　象：教養教育外国語科目（初習外国語）担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
本学の教養教育では学生参加型授業、学生の主体的学習が積極的に推進されてきた。初習外国語科目も同様で、「積極的な学生参加型授業を行う」ことを科目目標として掲げている。今回の FD では、本学の教養教育の基本方針に基づいて、初習外国語教育の充実を目指し、主体的学習促進支援システム LACS の活用について講習を行う。すでに本学の多くの先生方(教員の約 50%以上、学生の約 75%以上)が LACS を活用しているが、さらに多くの初習外国語の非常勤講師の先生方に活用していただけるように、本 LACS 講習会を開催することによって、これから学生の主体的学習を促進し、外国語の教育効果を高めるところにその意義がある。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
１．外国語教育（教養教育）の基本方針について　　14：00～14：15
言語教育研究センター　稲田センター長
２．LACS の活用に関する講習
（１）LACS 入門
ＩＣＴ基盤センター　　古賀 准教授　　14：15～15：15

（２）LACS 活用事例

言語教育研究センター　劉 教授　　15：15～15：45

３．言語別分科会　　16：00～16：30

９．参加者：２６名

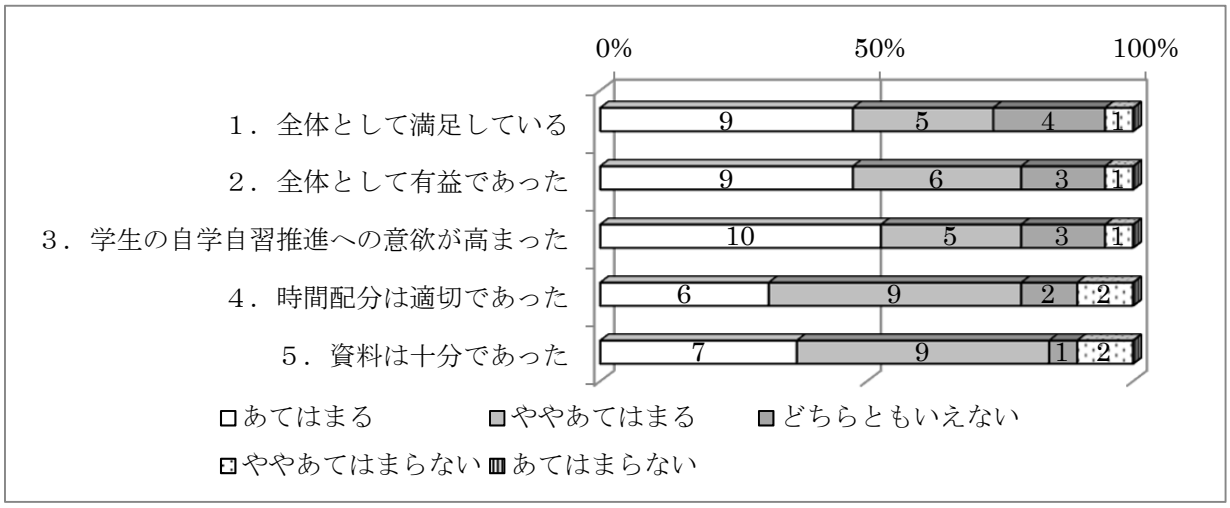
（内訳）

| 所　　属 | 人　　数 |
|---|---|
| 言語教育研究センター | 4 |
| 多文化社会学部 | 1 |
| 経済学部 | 1 |
| 学外非常勤講師 | ２０ |
| 計 | ２６ |

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）




（回答者：１９名）

●学生の自学自習に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

・外国語を「手で書く」ことも学習の一環としているため、（LACS で課題を配布する場合も）紙ベースで提出させています。逆に、紙で配布したものに手書き→写真を撮る→LACS にその写真をアップ送信が簡単にできるといい。（という学生の声がありました）

・自主的な学習が、LACS によってできるようになって、是非これから活用させていただきたいと思っております。

・学生の利用状況が分かってよかった。（思っていたより LACS システムの利用率が高いよ

うですね）LACS のアプリは教員も取得できますか？

・学生は機械に強いので、教員の方がより工夫をしていく必要はあるかと思いますが、LACS のようなシステムを利用することで、自主学習の促進には大いなる可能性があると思います。

・LACS は便利だが、明らかにオーバースペック、LACS をもう少しシンプルなシステムにして、浮いた予算で教員一人当たりの学生数を少なくしたほうが主体的な学習につながるはず。この大学は全体的に不必要なシステムの導入に予算を使いすぎている。

・LACS は学生の自習まで管理する側面がある。つまり管理の強化は主体的学習とはある意味反対方向にもなる方針である。小・中・高生と違い、大学生は、自分にとって何が重要で、何が重要でないか、各自の責任ある判断にゆだねるべき存在である。本来学生は努力を傾注すべき事柄とある程度手を抜く事柄を自主的主体的に判断してよい学習者なのである。そのことを我々は念頭において、彼らに接するべきである。

・自学自習は学生の勉強意欲とつながっています。学生の勉強意欲を引き出すのが一番です。したがって LACS は学生の勉強意欲を引き出す一つの方法です。今後は LACS を利用し、試してみます。

●今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

・LACS については既に説明会にて聞いていました。（復習にはなりましたが）

・実用的でよかった。

・これから LACS を使うつもりです。

・有益な勉強になりました。ありがとうございました。

・わかりきったことばかりで退屈でした。時間がもったいなかったです。

・LACS の使用率を上げることが、授業改善につながるかのような前提で議論がなされるが、どのような根拠に基づいて、そのような議論が行われるのが、一向につまびらかにならない。おそらくそうしろという側は、文科省がそうしろと言っているからという理由しか持っていないのではないか。だとしたら主体性のない大学人が主体的学習を推進しているという珍妙な状況という他ない。

・今回のＦＤの運営に満足します。

・是非、使いたいと思います。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本 FD は、学生参加型授業、学生の主体的学習が積極的に推進するために、本学の教養教育の基本方針に基づいて、初習外国語教育の充実を目指し、主体的学習促進支援システム LACS の活用について講習を行った。前半では、稲田センター長から長崎大学の外国語教育（教養教育）の基本方針について説明があり、それからＩＣＴ基盤センター古賀准教授が LACS の活用に関する講習を行い、次に劉委員が LACS の活用事例を紹介した。後半は、各言語別に来年度の授業について説明し、初習外国語教育の

現状及び問題点について意見交換を行った。今回の FD について、参加者の７５％の方から「学生参加型授業推進への意欲が高まった」という回答が得られたので、「学生の主体的学習を促進し、外国語の教育効果を高める」という目的を達成したと考えられる。

（文責：楊　暁安）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：稲田　俊明
e-mail：inadat @nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2379

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：楊　暁安
e-mail：xiaoan@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2166